



ピーマンの収穫を体験

「わあ赤いピーマンもなっているよ」「ピーマンで生で食べると甘くておいしいね」町の農作物を食べている都会の親子120人がこのほど、野菜の収穫体験をしようと生産地を訪れました。生産者から直接消費者のもとへ届ける産直（産地直結販売）は年ごとに充実し、いまや町農業の中心的役割を果たすようになりました。産直事業は生産者と消費者の相互理解から始まるので今回の訪問となりました。ハイキングをしたり、川での水遊びをしたりして八郷の自然を存分に味わいました。



作る人と食べる人が理解しあう



バーベキューをしながらの交流会

農産物の産直事業を推進している生産者と生協組合員による交流会が八月二十日午後五時から四時間にわたり、大増のほしのみや幼稚園で開かれました。交流会に参加したのは合わせて二百五十人。バーベキューやキャンプファイヤーを通してお互いの立場を理解し合いました。町の産直事業は、はじめてからこととして二十年。厳しい農業事情の中、産直事業は着実に発展を遂げてきました。今回はその産直事業について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

40品目13億円を産直で販売

平成四年度の産直事業（産地直結販売）による町全体の販売額は十三億七千万円にのびりました。

その内訳はタマゴが四億円、青果物が四億円、米が二億四千万円、ブローラーが一億七千万円、納豆が一億二千万円、その他豚肉などが四千万円です。関係する生産者は千人で、五生協十五万人の消費者に供給しています。

生産組織はシイタケ、施設園芸、野菜、シメジ、キウイフルーツ、養豚、養鶏、ブローラーの各部会とブドウ組合の九つからなり、作物数は四十品目を数えます。この

ように産直事業は町の農業振興にとって最も重要な位置を占めるようになってきました。

産直事業に積極的に取り組むようになったある生産者は「一生懸命作ったものでも市場販売の場合は、価格が高いか安いのかの応答しかありませんが、産直は自分の作ったものを食べてくれて『おいしかった』『新鮮な野菜をありがと』『う』と心えてくれる。心が通う。生産者と消費者がお互いを正しく理解しあえる。これが素晴らしいことだと思います」と感想を話してくれました。

産直のあゆみ

昭和四十九年 石岡地区連を通してタマゴの産直がはじまる。
昭和五十七年 石岡地区連を通してブローラーの産直がはじまる。

昭和六十年五月 町を通して八郷町農協に国の助成がはかられ、新農業構造改善事業の一環として、野菜集出荷施設「中央集荷所」が完成。町農協に初めての本格的な集荷所ができたことにより、青果物販売の基礎が確立された。

同年十月 野菜類ではじめてのシイタケの産直はじまる。当時は集荷場所が支所ごとであったため、出荷の選別内容がふぞろい。生産量は県下一でありながら有利な販売にはならなかった。
昭和六十一年 シイタケの一元集荷はじまる。サヤエンドウ・インゲン・ソラ豆・秋ナスの供給がはじまる。
昭和六十二年 生産者と生協組

無農薬シイタケが人気商品

昭和六十年五月、八郷町農協に新農業構造改善事業の一環として野菜集出荷施設「中央集荷所」ができました。それまで野菜・シイタケはそれぞれの支所ごとに市場へ販売をしていました。中央集荷所はナシの選果場を併設し六百坪の建物に五十坪の冷蔵庫・予冷庫を持ち、農協に初めての本格的な集荷所でした。この集荷所を中心に産直事業は確実に発展していったのです。

「八郷町には東都生協にはないシイタケや豆類がある。ぜひ生協に送ってほしいか」との要望に応える形で、昭和六十

十年十月、野菜での最初の産直としてシイタケが東都生協に供給されました。シイタケは集める場所が農協の支所ごとであつたため、出荷の選別内容はふぞろいで生産量は茨城県一でありながら有利な販売になっていきました。中央集荷所ができたことにより昭和六十一年六月、シイタケの一元集荷



東京練馬区に住んでいる渡辺登志子さん（中央）は子ども2人とともに交流会に参加。

がはじまりました。シイタケの一元集荷は、それまでバラバラだったほかの野菜の販売まで一部を残して一元集荷へもつていく契機となりました。産直は少量多品目であるため、産直の拡大にともない農協の担当者も非常に忙しくなっていました。品目ごとの生産計画、生産指導、出荷数量の生産者への割り当てなど、仕事量がふえる一方で、組合長をはじめ農協全体が産直の体制づくりをしていきました。昭和六十三年には野菜ばかりでなく、納豆用の極小粒大豆とコシヒカリ

の供給がはじまったのです。タバコ栽培から産直野菜づくりへ転換していった瓦会の広沢さんは「タバコづくりのたい肥づくりが産直に生かれます。消費者のみなさんが実際に耕作している現場に見に来てくれるのはうれしいです」と、産直に農業の夢を託しています。温暖な気候と肥よくな農地に恵まれた八郷町は、産直事業の供給地として順調に拡大していきました。

都会と農村がともに栄える

産直が活発になってくると、交流会と合わせて実際の生産現場を視察に、八郷町へ生協の組合員さんが訪れるようになります。

納豆工場を訪れて減農薬でできる八郷産大豆の納豆づくりを見たり、中央集荷所を見たり、キュウリやナスの畑やシイタケ栽培を見学したり、鶏舎に入り産みだての暖かいタマゴをさわったりして、地域総合産直のすばらしい八郷町の一日を過ごして帰ります。産直の野菜のキュウリやナスの畑では自分でもぎとります。収穫体験が初めての子どもたちが多く、大へん喜んでくれます。中には、八郷町の自然に触れ「心が洗われる



町内各地から参加した生産者の皆さん

ようだ」とその感激を語ってくれる人もいます。

産直により物の交流だけでなく人の交流も活発に行われるようになりしました。都会との交流によって、自分の住んでいる町を見つめ直すことができます。たとえば食べ物や安全性に対する考え方、なにげなく使用していた農薬が生産者の健康をそこなう危険があること、「売るものを作っていたが、食べものを生産しているのだ」とあらためて教えられたことなど。タマゴから始まった生協との産直はいま、地域総合産直へと発展し、八郷町の農業に大きな夢と期待を与えてくれます。

会員の交流会に初めて参加する。野菜・小分け事業はじまる。東都生協委託の研究班により町の地域調査が行われる。生産者組織の野菜果物産直協議会が結成される。東都生協の「土づくり宣言運動」に参加。産直生産者に呼びかけ、産直の拡大がはじまる。

昭和六十三年 東都生協との交流会・産地訪問など活発に展開はじまる。農協の産直対応も充実される。納豆用極小粒大豆の供給がはじまる。小桜農協が合併し、生産者がさらに拡大される。町との産直関係は大きく前進し、品目も生協の要望に応えて年々多品目となった。六十一年は五品目、六十二年は十九品目、六十三年には二十六品目と拡大していった。

平成元年 生協への豚肉供給のため、黒豚が導入される。納豆工場稼働、生協への供給がはじまる。「食料と町農業の未来を考えるシンポジウム」が開催される。農薬無散布実験田がはじまる。

平成二年 豚肉の供給がはじまる。「協同のむら」の話し合いがはじまる。総合産直委員会が設立される。

平成五年 大増ほしのみやにて産地交流会が開かれる。

新鮮な農産物が取り持つ縁

安全でおいしい食品を食べることはみんなの願いです。八郷の農産物が消費者に高評価を得て、さらに発展するため、農業関係者はいま、産直事業に熱い視線を送っています。ここでは、生産者と消費者のご意見そして役場農政課長のアドバイスを紹介いたします。

産直が野菜栽培を活性化

シイタケの産直は八年前からはじまりました。当時は、支所ごと



柘植 市郎さん
小見・63歳

の集荷体制のため品物もふぞろいだったため、良質の割には評価は低かったです。昭和六十一年、一元集荷体制となり、中央の検査も軌道に乗り、八郷町のシイタケが必然的に市場評価を得るようになりました。時を同じくして産直

交流会などを通して安全な食料供給についての話し合いが行われました。現在は、産直と市場の両面出荷体制をとっています。今後も引き続き同じ体制を堅持するのが望ましいと思います。八郷の野菜作りがなんとかやっていける見込みがついたのは産直のおかげ。友好関係をいつまでも大事にしたいものです。

うまい水と多品目栽培に魅力

生協組合員になって十七年になります。「安全・新鮮・高品質」

私は仕入れ委員会に所属してい

る食品を仕入れのモットーにしている生協活動はのちと暮らしを守る源です。産地訪問や交流会を通して、私たちが食べている食品は、だれが、どこで、どんなふうにして作っているのかを理解しま



松本 和子さん
世田谷区・生協役員

ますのでこれまでさまざまな産地を訪ねました。八郷へは今年で三回目ですが、タマゴ、野菜、果物、米、畜産物と幅広い農産物が収穫されるのにおどろいています。さらに恵まれた自然の中で八郷のおいしい水をいただくのも格別です。いつまでも八郷産の食品を供給していただき、末長におつきあいをお願いいたします。

果菜類の販売、急速に伸びる

農業関係の集まりがあると、よく「厳しい情勢の中で」との言葉を耳にします。私は、自営業の方は農業に限らず、企業も商業も厳しいのではないかと思います。

こらしながら経営努力をしていると思います。しかし、その成果が得られた時は、われわれ給与者と違い、感無量の優越感にひたるのも自営業者の特権ではないでしょうか。

戦後二十年あまり続いた為替レート・一ドル三百円台が、いまや百円台に。企業によっては厳しいというよりむしろ苦しいのではないのでしょうか。

昔、特産戦後、汽車の中にはおばあさんの担ぎ屋さん、街々の路地には朝早くからリヤカーを引いたおばあさんが野菜などを売り歩いていました。年



ドロ付、コンテナ出荷のため生産者の労力と経費は少なくなります。

援農してでも産直続けて

生協組合員になって八年目。副理事長という役職のため、八郷へ



井上 節子さん
保谷市・生協役員

は数えきれないほど足を運んでいきます。八郷の自然に出会うたび生き返った感じがします。また、温暖な気候と良質な土壌に恵まれ多くの農産物ができるのも魅力です。最近、農業後継者が少なくなっているのを耳にしますが、私どもは、援農して農業のお手伝いをし

たい気持です。産直は安全でおいしい農産物を供給していただくことに意義があるので、どうしても多くの手間がかかります。産直を存続するには生協組合員と生産者が一体となって、お互いがよい暮らしをするための努力が必要です。それにはもっと都会と農村が交流して収穫の喜びを味わうなど理解を深めたいと思います。

八郷の自然に心が洗われる

生協組合員になって三年目になります。近くの友達が質の高い食品を生協から取り寄せているのを見て早速私も東都生協に加わりま

した。今回の「夏休みに八郷の自然とふれあいながら親子で楽しめるキャンプ」には、小学一年生と幼稚園の男の子三人で参加しました。



坂内 玲子さん
練馬区・生協組合員

ハイキング、バーベキュー、キャンプファイヤー、施設見学そして

て野菜の収穫体験など盛りだくさんのスケジュールに子どもたちも大満足です。八郷に来たのは、婦人交流会のとき、昨年の田植え体験と今回で三回を数えます。いつも緑豊かな八郷の自然にふれ、心が洗われる思いがいたします。これからも恵まれた自然の八郷でできる食品に期待していますので、がんばってください。

減農薬守り安全な食品作り

四年前、タバコ栽培をやめて野菜作りをはじめました。主体はヒ



村田要一郎さん
瓦谷・60歳

ーマン、小松菜、パセリです。小松菜は全量が生協取り引きですが、ほかの野菜は二割が生協で、八割が市場出荷です。

野菜の価格はほとんどが販売する者でなく買う側がつけるのが流通の仕組みになっています。しかし、産直は生産者が生協と話し合

って決めることができます。だから安心して野菜栽培に取り組みます。農協と相談しながら生協指定の農薬基準を守り、安全でおいしい食品作りに心がけています。

出荷方法も市場出荷時のダンボール詰めではなく、産直はコンテナ出荷なので簡単。今後の野菜栽培には、産直との取り引きをより一層強めることが大切だと思います。

は決して楽な仕事ではありません。しかし、その表情は明るく感じました。新鮮な農産物を消費者に届け、喜ばれ、感謝され、そこに、優越感があつたからではないでしょうか。これが真の産直であります。

町の産直には、農協が組織的に行っている生協取り引き、個人宅配、イメージは違いますが、観光果樹などがあります。

産直の利点は、鮮度のよさと流通経費の節減にあります。節減された経費は、生産者、消費者のいずれかが得るものでなく「差益相互還元」によらなければならぬと思います。

農協が東都生協十二万世帯を主に、平成四年度に販売した農畜産物は十三億円に達し、特に近年果菜類の販売が急速に伸び「生鮮食品の供給基地」として高く評価されております。また、食料制度の大幅改正が論議されている中、組織的消費団体である



飯村農政課長

る生協との関係は極めて重要であり、八郷農業の安定的発展に大きく寄与されるものと確信しております。

個人宅配、観光果樹などについては、組織の連携を密にし、消費者ニーズの把握に努め、観光果樹を通して宅配へ、宅配から店頭での八郷農産物の愛着と信頼へ、ひいては市場評価へとつながりと広がりをもてる宅配こそ真の宅配であり、町農業発展の一翼を担うものと信じています。

良心、信頼、相互理解の原則を遵守し、戦後のおばあさんたちのように、消費者に感謝され、喜ばれる、産直の町づくりに関係者のかたがたの尚一層の研さん努力をお願いいたします。



パートさんによる小分け作業

アジア8か国から農業視察



サトイモの栽培方法に関心を示す視察団

アジアの有機農業に取り組む民間団体が八月、日本で初の国際会議を開きました。そこに参加したインド、パキスタン、韓国、ネパールなど八か国、十人の皆さんが二十五日、八郷有機農業見学に訪れました。町には約三十人の有機農業生産者があり、それぞれに成果を上げています。それらの畑地、水田、鶏舎などを見学し、作付状況や出荷体制について説明を受けました。午後五時からは産直生産者、農協役場など関係者も参加して交流集会が行われました。

メモとり精力的に見学

八郷有機農業視察団は二十五日の午前十一時、芦穂地区多目的センターに到着しました。有機農業生産者の皆さんが準備していた昼食をとって午後早速視察に出かけました。

最初はJAやさとの配送センター。ダンボールに箱詰めされて出荷される野菜の山、ベルトコンベアーにより選別されていくナシの選果風景を熱心に見学していました。続いて納豆工場へ足を運びました。この納豆工場は平成元年度水田農業確立対策処理事業の大豆加工処理施設として建てられたものでJAやさとが運営しています。「やさと納豆」は始めから納豆を作るために栽培された納豆小粒が原料となっており、農薬散布も最小限の一回程度の省農薬です。もちろん産直として東都生協に販売されています。

続いて嘉良寿理の魚住道郎さんの農園に行き、鶏舎、水田そして野菜畑などを見学しました。魚住さんの水田にはコイが放されており、雑草処理や稲の養分吸収を助けて分けつを促進するのに役かっているそうです。一見面白そうな栽培方法に大きな関心を示していました。



JAやさと配送センター見学

その後、柿岡のたまごの農園などいくつかの現地を視察して最後に、食と農を結ぶ生産組合（組合長広瀬平一郎）の出荷方法を見学しました。それぞれのコンテナには名札がついており、いろいろな品種の野菜が少量ずつ積み込まれていました。一世帯ずつのていねいな仕分けやきめ細かい栽培方法はめずらしいようで、重ねて質問をしたり、熱心にメモをとっていました。

現地視察をしたあと、午後五時から芦穂地区多目的センターの広場で交流会が開かれました。集まったのは生産者、農協、役場など約百人。桜井町長も出席し、歓迎のあいさつを述べました。また、特別参加として柿岡の「横室ばや



シリン・ガーデアさん
(インド)



鄭 眞 永さん
(韓国)



シン・シャン・ヤンさん
(マレーシア)



A・V・ダニエルさん
(インド)

生産者一人で60世帯に販売

「し」が披露され、おかめやひよつとこ踊りにかん声上がり、一緒に踊り出す方もおりました。韓国から来られた鄭さんは流ちょうな日本語で「八郷の有機農業生産者は非常にたくさんおります。しかも、町長さんはじめさまざまな関係者が私たちの訪問を歓迎してくれたことはこの上もない喜びです。これからは有機農業発展のためご協力をお願いします」とお礼の言葉を述べられました。

八か国、十人の皆さんは、有機農業生産者などの家に分散して宿泊し、八郷町の生活ぶりも体験して帰路につきました。

農協を通して産直を進めている生産者が生協など大きな消費者団体を相手に農産物を販売しているの比べ、有機農業生産者は、生産者一人につき、六十世帯程度の小規模の消費者相手に販売しています。

同じ産直でも規模や方法に違いはありますが、安全でおいしい新鮮な農産物を消費者に届けているのに変わりはありません。しかも産直推進の条件である多品目の生産には八郷がピッタリだといいます。魚住さんは「産直が見直され

＜歓迎のあいさつをする
桜井町長



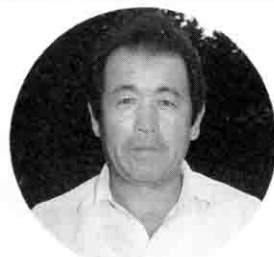
▶熱心に耳を傾けるアジア
各国のみなさん

活に取り組む運動という形で展開してきた。

有機農産物……農林水産省が昨年十月、「有機農産物等に係る青果物の特別表示ガイドライン」を制定した。それによると、有機農産物とは、「化学合成農薬、化学肥料及び化学合成土壌改良資材を使用せず三年以上経過し、たい肥等による土作りを行った農地において化学合成農薬、化学肥料等を使わずに収穫された農産物」となっている。

また、その適用範囲は「農産物のうち青果物等（野菜及び果実、穀類）であり、不特定多数の消費者に販売されるもの。ただし米、麦、加工品を除く」となっている。

有機農業を
多くの人にPRして



広瀬平一郎さん
須釜・53歳

有機農業をはじめて十三年になります。五人の仲間と食と農を結ぶ八郷生産組合を作り、出荷しています。二百五十世帯の消費者に週二回のペースで農産物を届けています。

私が有機農業をはじめたきっかけは、柿岡にあるたまごの会から、ナシを出荷してほしいといわれ、その後、野菜も栽培してみても、と誘われたためです。市場出荷に比べ産直は農産物の価格補償があり安心して栽培できますが、反面、除草剤が使えないため草取りが大へんです。また、農産物を消費者へ直接自分たちで運搬するため、夜を徹して車を走らせることもありま

最高齢は100歳の斉藤さん

九月十五日は敬老の日です。町では、地区公民館主催により七十歳以上の方三千六百三十五人（対前年比百三十四人増）を招待して、町内九会場で敬老会を開き、長寿の祝いをしました。また、八十歳以上の方一千百三十三人に、町から長寿を祝う赤い座ぶとんと敬老祝金が贈られ、さらに八十八歳七十七人の方に米寿の祝いとして、県から褒状と記念品が贈られました。

人生まさに八十年時代の長寿社会。健康で快適な生きがいのある一生を、元気に送りたいものです。



最高齢者の斉藤すてさん（中央）に県土浦地方福祉事務所の前島所長（右）から祝状と記念品が、桜井町長（左）からは祝金などが贈られました。



奥村つまさん (98)

悠々自適の毎日



伊藤てつさん (98)

腹八分目の食事

六十五歳以上（八月一日現在）の方は、昨年より三百七十四人ふえて五千六百三十一人となりました。これは町人口全体の一八・五％にあたり、五・四人に一人が六十五歳以上で占められているということになります。一段と高齢化が進みました。

ことは九十歳以上（明治三十六年十二月三十一日以前生まれ）の方が昨年より二十二人ふえて、百二十四人となりました。男女別では、男性が四十人（三三・三％）、女性が八十四人（六七・七％）で、昨年とはほぼ同じ比率です。



谷仲寛雄さん (96)

快食・快眠・快便



植木こうさん (98)

十年前腰いためる

町の最高齢者は、吉生の斉藤すてさんで、ことしの八月二十日の誕生日を迎えちょうど百歳になりました。斉藤さんは百歳達成者として内閣総理大臣から長寿をたたえる祝状と記念品が贈られました。

男性の最高齢者は太田の谷仲寛雄さん。十二月十一日の誕生日を迎えると九十七歳になります。少し耳は遠くなりましたが、毎晩晩酌を楽しんでいるそうとても元気に暮らしています。長寿社会が進む中、町民のみなさんの協力によりお年寄りが安心して暮らせる町をつくっていきましょう。

長寿・おめでとうございます

平成5年9月1日現在90歳以上（敬称略）

順位	氏 名（世帯主）	性別	年齢	住 所
1	斉 藤 す て（豊 一）	女	100	吉 生
2	伊 藤 て つ（唯 雄）	女	98	東成井
3	奥 村 つ ま（末 雄）	女	98	東成井
4	植 木 こ う（博 ）	女	98	小 倉
5	大 岡 た み（孝 義）	女	98	中 戸
6	谷田部 み の（次 郎）	女	97	東成井
7	大和田 や い（弘 ）	女	97	東成井
8	谷 仲 覚 雄（正 ）	男	96	太 田
9	飯 田 た か（栄 ）	女	96	小 幡
10	斉 藤 か く（清 一）	女	96	下 林
11	小松崎 さ い（吉 則）	女	95	川 又
12	井 坂 リ ウ（市村吉正）	女	95	小 幡
13	前 澤 平太郎（平太郎）	男	95	上 曾
14	小谷田 房 吉（寿 雄）	男	95	大 増
15	伊勢山 ひ て（衆 雄）	女	95	東成井
16	瀧 田 源三郎（源三郎）	男	95	柿 岡
17	仲 村 あ さ（重 雄）	女	94	菖蒲沢
18	鈴 木 い 久（秀 夫）	女	94	太 田
19	真 家 只 吉（正 一）	男	94	真 家
20	友 常 梅 男（博 ）	男	94	月 岡
21	土 田 く ら（善一郎）	女	94	柿 岡
22	廣 瀬 き み（憲 一）	女	94	太 田
23	長谷川 き ん（貴 一）	女	94	真 家
24	上 野 た か（和 男）	女	94	小 屋
25	磯 山 た み（勉 ）	女	94	部 原
26	稲 見 保 之（康 男）	男	93	宇治会
27	原 田 善 助（隆 ）	男	93	半 田
28	久保田 た か（守 ）	女	93	山 崎
29	荒 井 政 雄（重 雄）	男	93	山 崎
30	来 栖 国 勝（義 雄）	男	93	中 戸
31	鎌 田 ふ じ（由 ）	女	93	柿 岡
32	羽 生 薫（幸 衛）	男	93	上青柳
33	比 企 ふ ん（正 雄）	女	93	小 塙
34	脇 政 子（大八郎）	女	93	柿 岡
35	宮 も と（重 雄）	女	93	真 家
36	吉 田 瀬 一（寛 ）	男	93	瓦 谷
37	鈴 木 と し（源兵衛）	女	93	山 崎
38	大 槻 ち う（光 一）	女	92	山 崎
39	菊 地 志 ま（保 ）	女	92	大 塚
40	青 山 や ト（誠 治）	女	92	山 崎
41	矢 口 清 一（恒太郎）	男	92	下 林
42	神 生 ま つ（彰 ）	女	92	吉 生
43	藤 岡 安（正 光）	女	92	太 田
44	高 橋 ク ニ（泰 ）	女	92	下青柳
45	今 井 き く（一 夫）	女	92	小 幡
46	鈴 木 さ い（敏 夫）	女	92	瓦 谷
47	中 澤 ま 津（仁 平）	女	92	柿 岡
48	古 内 も と（廣 志）	女	92	柿 岡
49	山 田 な つ（三樹郎）	女	92	東成井
50	内 山 政 雄（進 ）	男	92	大 増
51	飯 塚 良 政（隆 ）	男	92	下 林

順位	氏 名（世帯主）	性別	年齢	住 所
52	宇 田 貞 次（勇 ）	男	92	大 塚
53	廣 瀬 い 志（喜代子）	女	92	須 釜
54	岡 野 耕 作（重 巳）	男	92	大 塚
55	市 村 は や（昇 ）	女	92	上 曾
56	市 村 長（政 利）	男	92	須 釜
57	鈴 木 セ ン（清 一）	女	91	宮ヶ崎
58	谷田部 な か（藤一郎）	女	91	柿 岡
59	原 田 た け（清 ）	女	91	半 田
60	宮 み ね（春 夫）	女	91	上 曾
61	松 川 よ し（瀧 ）	女	91	柿 岡
62	前 澤 ち よ（平太郎）	女	91	上 曾
63	土 師 徳 三（徳 三）	男	91	真 家
64	塚 田 た い（恒 夫）	女	91	柿 岡
65	渡 辺 こ う（志 づ）	女	91	柿 岡
66	飯 田 徳 次（眞 一）	男	91	小 幡
67	神 生 セ い（雅 夫）	女	91	吉 生
68	久保田 よ し（謙 一）	女	91	太 田
69	小松崎 な を（芳 栄）	女	91	柿 岡
70	斉 藤 の ぶ（光 男）	女	91	上 曾
71	鈴 木 と き（博 ）	女	91	小 幡
72	木 村 延 助（重 一）	男	91	上 曾
73	山 崎 ひ て（孝 一）	女	91	吉 生
74	小 林 栄 三（康 芳）	男	90	須 釜
75	小 沢 てつ子（和 一）	女	90	月 岡
76	園 部 え い（一 光）	女	90	根小屋
77	飯 田 勝（豊 ）	男	90	下 林
78	萩 原 よ し（正 久）	女	90	片 岡
79	堀 江 す 美（正三郎）	女	90	辻
80	岡 本 吉（吉 ）	女	90	大 増
81	柘 植 英 寿（忠 夫）	男	90	小 見
82	峯 み よ（わ か）	女	90	上 曾
83	関 ふ ち（茂 一）	女	90	下青柳
84	広 瀬 眞（眞 ）	女	90	小 見
85	岩 井 米 吉（幸 雄）	男	90	山 崎
86	内 山 幸三郎（マ サ）	男	90	大 増
87	大 岡 市太郎（一 弥）	男	90	中 戸
88	真 家 恒 男（一 三）	男	90	柴 間
89	中 村 さ く（進 好）	女	90	川 又
90	中 村 政 男（重 ）	男	90	月 岡
91	磯 崎 さ く（正 一）	女	90	小 幡
92	片 岡 宇 め（征 雄）	女	90	柿 岡
93	萩 原 か う（敏 一）	女	90	宇治会
94	佐 藤 ちとせ（忠 ）	女	90	小 幡
95	倉 田 い ち（茂 雄）	女	90	東成井
96	吉 村 コ ウ（初太郎）	女	90	柴 内
97	中 島 ヌ イ（ヌ イ）	女	90	小 倉
98	成 田 幸 一（建 ）	男	90	小 幡
99	高 野 利 雄（伯 雄）	男	90	小 見
100	富 田 市 郎（順 一）	男	90	下青柳
101	川 井 誠 造（誠 造）	男	90	柿 岡
102	小松崎 な つ（克 巳）	女	90	川 又

町立林保育所

林保育所は林小学校の隣に並ぶように建てられています。県道より奥に入っていますので交通の面ではとても安全です。保育所を卒園した小学生たちも休み時間になると、元気を姿を見せてくれます。毎年入所してくる園児たち（定員六十名）は、平成三年度五十名、四年度五十七名、五年度五十八名と徐々に増えています。一歳児から就学児までを四クラスに編成して保育。小さいお子さんも多く入所するようになりました。

同保育所は春夏秋冬年四回、福祉バスを利用して園外保育にでか



けます。フラワーパーク、石岡市国府公園、出島村水族館などを訪れたり、ブドウ狩り、ミカン狩り、イチゴ狩りを行ったりして楽しいひとときを過ごします。

また、毎月誕生会を開き、誕生児にはすてきなプレゼントが、そして昼食には全員に特別メニューのおいしい給食が用意されます。

伝統ある消防クラブで 防火・救急活動を学ぶ



消防車や救急車にふれて消防
救急活動の大切さを知る

さらに、同保育所の特長的な面は、幼年消防クラブに所属していることです。消防自動車、救急車、ポンプ車に乗ったり、消防士の訓練を見学したりして消防や救急活動の重要性を学習します。ことしの八月に開かれた県防火大会には、日ごろの活動が認められ、優良民間防火組織の「幼年消防クラブ」の部で県消防協会長賞を受賞しました。

秋になると運動会が行われ、全身を使つての競技に一人ひとりが

がんばります。父母のみなさんの協力をいただき、みんなで楽しいひとときを過ごします。

自然に恵まれた環境の中、元気に遊びはねている園児たちの個性を大切にした保育をモットーにしています。年間を通した行事には父母の会（三輪正善会長）の協力が大きく、職員との綿密な連絡をとりながらよりよい子育てに取り組んでいます。地域に密着した親しまれる保育所づくりに各方面から注目され、期待されています。

町長の日記帳から



八月の主な動向はつぎのとおりです。

農作物中心に被害

桜井盾夫

一日(日)町子ども会救技大会
二日(月)つくば、笠間市間道路整備促進協議会
三日(火)五日(木)観光協会研修
六日(金)部落解放愛する会との話し合い
七日(土)商工会青年部納涼盆踊り大会

九日(月)区長会役員会及び懇談会
十日(火)郡町村長会
十一日(水)石岡地方斎場組合臨時議会

十二日(木)県反核平和の火リレー出発式

十八日(水)二十四日(火)郡町村長海外行政視察スイス・フランス
二十六日(木)補正予算査定、恋瀬川改修説明会
二十七日(金)台風十一号被害状況調査

二十九日(日)郡子ども会救技大会
いずみ会童謡コンサート
三十日(月)つくば・八郷・真壁観光協会総会
三十一日(火)更生保護婦人会湖岸ブロック研修会

台風十一号は八月二十七日、関東地方を直撃しました。その日は終日風雨が激しく、河川の増水に伴う道路の通行止めが相次ぎました。降りをはじめからの町の雨量は一四九・五ミリを記録。町でも稲や果樹など農作物を中心に多くの損害を被りました。早速被害状況を調査し、善後策を講じているところです。

私は片野の光安寺橋付近で警戒する消防団のみなさんと一緒に状況を見守りました。片野地区は過去数回恋瀬川がはんらんし、家屋の床下浸水、床上浸水がありました。そのため、片野地区から離れることができなかったのです。

幸い今回は、下流石湖山周辺の河川改修の効果もあり、大事には至りませんでした。

恋瀬川の河川改修についてはこれからも引き続き、県にお願しながら水害の恐れがなくなるよう努力してまいります。

同和問題の理解のために ①

部落はなぜつくられたか

(1) 残る差別

(人間として)

いうまでもありませんが、「人間はひとりひとりがかけがえのない値うちをもっている」という人間尊重の考え方は「基本的人権」として、日本国憲法で保障されています。しかし、部落の人たちは侮蔑や非合理的偏見、嫌悪によって、民主主義の世になった今でも就職や結婚など、いろいろの点で差別をうけています。

部落問題は過去のものであると考えるのは大きなまちがいで、部落差別は今も根強く残っているのです。このことは、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する重大な問題であり、真の民主国家を開かれる国民的課題なのです。(部落はなぜつくられたのか)

部落が、いつごろ、誰によって、なんのために、つくられたのかを

知り、考えていくことは、部落への差別をなくすために、たいせつなことです。

部落は今から三五〇年くらい前江戸時代の前期につくられたと考えてよいと思います。戦国時代に大名がその城下男に、領内にいた皮革業者を集めて、皮屋町をつくり、戦に必要なもの、かぶと、弓、矢、馬具をつくらせました。これが部落ができるもとでした。

江戸時代になると、徳川幕府や大名は、城下の皮屋町に住む人々に警備や取締りの仕事をやらせました。これを「長吏職」といいますが、これがだんだん世の中の最下層の「えた」という身分にされていきました。したがって、部落をつくったのは、幕府や大名であることがわかります。部落の人は異人種でも、異民族でもなく、疑いもなく、日本民族、日本国民なのです。

それでは何のために「えた」という最下層の身分をつくったのでしょうか。戦国時代は戦乱の世の中でした。ひとたび戦がおれば高い地位にいた人も、一瞬のうちに、その地位を失ない、一方、実

力と機会に恵まれればたちまち高い地位につくことができました。

戦国大名や徳川幕府の將軍は、この戦乱の世に、下の身分から高い地位についた人びとです。かれらは自分たちが築いた地位を守るために、下から成り上がる者が出てこない社会のしくみをつくらうとしました。「士農工商」の身分制度がそれです。特に、人口の八〇%を占め、重要な生産に従事している農民を完全におさえておく必要がありました。農民を貧しい生活で、教育が受けられず、刀を持たない身分に固定しました。農民より低い「えた」の身分をつくることにより、農民は「上をみて暮らすな、下をみて暮らせ」と、あきらめと自己満足においやり、幕府に対する不満をそらそうとしたのです。このことから、幕府や大名が農民を支配しやすくするために、一つの政策として、部落をつくったことがわかります。

部落は、城下町、宿場町、船の渡し場などにつくられ、農村にもつくられました。部落の人々は、住む場所、仕事、結婚、交際などで差別されていきました。人びとの間に、部落を差別する意識がだんだんきざみこまれ、差別すること、なんの罪の意識も感じなくなつていったのです。

(県同和資料より)

花と緑の楽園
茨城県 フラワーパーク

色あざやかに 秋バラまつり



四季おりおりの「花と緑」が楽しめる茨城県フラワーパークでは、九月二十六日～十一月十四日まで「秋バラまつり」を開催いたします。冷夏の影響で開花が心配された五百品種、三万株の世界のバラも、例年より若干遅れ気味ですが十月中旬には見頃となる予定です。

なお、期間中はイベントも多数開催されます。

主なイベントは、期間中の園内のスナップ写真を募集する「アマチュア写真コンテスト」(十月三日には「水戸の梅娘撮影会」も行います)、「生花展」(九月二十六日～三十日)、お子様向けの「キャラクターショー」(十月十日、十一時～十四時

の一日二回)、卓上花の作り方に関する「フラワーデザイン教室」(十月十七日、十一時～と十四時の一日二回)、「イワヒバ展」(十月二十日～二十四日)、「秋の創作盆栽展」(十月二十七日～三十一日)。

その他、本物の花以上に美しい色彩のパン粘土の花を展示する「パンフラワー展」(十一月三日～七日)など、お子様からお年寄りの方まで楽しめるイベントが盛りたくさんですので、多くの皆様のご来園をお待ちしております。

なお、月曜(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)休園ですので、ご注意ください。お問い合わせは ☎ 四二一四一一 まで。



同和教育研修会講演

八郷町の文化財

(14)

勤皇の志士として活躍

やまがたはなは
山県大式の墓

県指定 昭和十年十一月二十六日
所在地 八郷町根小屋 泰寧寺
根小屋集落に曹洞宗泰寧寺があります。本堂左手の墓地を一段あげた左手に山県大式の墓があり、茨城県の史跡文化財に指定されております。

山県大式は享保十年(一七二五)に山梨県巨摩郡竜王町篠原に生まれ、号を「柳莊」と呼び、宝暦元年(一七五二)二十七歳のとき江戸に出て兵法を講じ同九年(一七五九)に「柳子新論」を著し尊王論を説きました。

しかし、明和三年(一七六六)「柳莊は幕府転覆を企てている」と訴えられ、十二月に捕らわれました。翌年の八月二十二日、山県大式は四十三歳、小塚原で処刑



され、その首は小塚原にさらされました。

大式は儒学と兵法を説き、門下生は三千人に及んだといわれ、その中のひとりである根小屋出身の園部文之進がこれを見るに忍びず、真夜中ひそかに師の首を奪って帰

歴史の変遷見守る巨樹

太田のイヌグス

町指定 昭和四十七年十一月七日
所在地 八郷町太田九六五番地
藤岡信義宅庭

樹高 四・九メートル
幹の太さ 四メートル九〇

樹齢は不明だが、樹勢は今も旺盛で、道路からも堂々とした樹姿が一段と目立ちます。庭の東側に立ち、日当たり最高、強い根は田や畑まで伸び、イヌグス独特の大きな瘤が家内安全をじっと見つめています。庭の整地や母屋の新築の時、一メートルほどの土盛りで樹高が下がり、枝の一部が払われたといわれています。

昔は子供たちが枝に縄を付け、ブランコや木登り遊びでにぎやかでした。また、幹の腐食穴に大蛇

郷し、根小屋の自宅墓地に埋葬し家人に告げてこっそり立ち去ったと言われている。

その後明治になって泰寧寺内の現地に改葬されました。

○法名 卓栄良雄居士と過去帳に記されております。

○明治二十四年十二月七日 正四位が贈られました。

○山梨県の出生地には、山梨神社を建立し山県大式を祭つてあるそうです。



が住み「わが家の守り神」として言いいます。こうした藤岡家や太田集落の歴史変遷を数百年にわた

り見守つて来たイヌグスでしょう。イヌグスはクス科に属したブの本とも呼びますが、当地ではイヌグスと呼びます。温暖な山麓の地に育成し、常緑樹の中でも樹勢旺盛で樹林の王者たる風格を表します。当地には多数の巨樹がありましたが、戦後次々とさられてしま

いました。

最近気になる病気

消化性潰瘍

豊後荘病院

内科消化器科

小松崎雅彦医長



消化性潰瘍には主に胃潰瘍と十二指腸潰瘍がありますが、これらは消化液の一つである胃液によって胃、十二指腸の粘膜が自己消化されて限局性に組織欠損が起こり、潰瘍がつくられるために消化性潰瘍と呼ばれます。胃潰瘍は各年齢層に発生しますが、中年以降が多く、十二指腸潰瘍は青年・壮年に多くみられます。男女差では圧倒的に男性に多くみられるのが特徴です。消化性潰瘍の原因は簡単に言う、攻撃因子と防御因子のバランスがくずれると言うことで

す。攻撃因子とは、胃酸の分泌細胞からペプシノーゲン(分泌されてペプシン)、壁細胞から塩酸などがあります。防御因子には幽門腺から主に分泌される粘液や胃の血流がありますが、これらのバランスがくずれると潰瘍となってしまう。症状ですが、自覚症状でいちばん多いのは上腹部痛です。空腹時に痛む、食後に痛む、夜間痛みで目が覚めるなど痛み方はいろいろです。次に多いのが胸やけです。胃炎などにもみられますが、普通、食後二・三時間後に現れます。また悪心、嘔吐や食欲不振、おなかがはる感じがしたりします。他覚症状としては、みぞおちを押すと生じる痛み(圧痛)や舌に苔が生じる(舌苔)、貧血などがみとめられます。貧血は、多くの場合潰瘍からの出血が原因として起こりますが、出血した血液は胃液と接触すると黒くなりますから、便が黒くなったというのも一つの症状です。

診断には、X線検査や内視鏡検査などがありますが、胃潰瘍との鑑別から内視鏡検査時の生検といったことが必要となってきます。

治療には、安静・食事療法・薬物療法・外科手術がありますが、現在は大変よい潰瘍の治療薬がありますので、手術をすることは、少なくなっています。

生しいたけの
いため煮ときんぴら



食生活改善推進員 助川公子（月岡）

【生しいたけのいため煮】

材料 生しいたけ（小さいもの）200g ゴマ油 大さじ2 しょうゆ大さじ3 酒大さじ1 一味とうがらし少々

作り方 ①生しいたけは柄を切り、さっと水洗いする。

②フライパンにごま油を入れ、しいたけをいためる。全体に油がまわったら、酒・しょうゆをいれてよくいため、火をとめて、一味とうがらしをふり、できあがり。

【しいたけのきんぴら】

材料 生しいたけの柄150g にんじん（小）1本 ごま油大さじ2 酒大さじ2 みりん大さじ1 しょうゆ大さじ2

作り方 ①生しいたけの柄は石づきをとり、細かくさく。にんじんはせん切りにする。

②フライパンにごま油を入れ、しいたけとにんじんをいためる。にんじんに火が通ったら、酒・みりん・しょうゆを入れ、全体に味がしみるように良くいためる。

おひな家のひなこ

大塚

村田 教明 ちゃん

父 重春さん 母 恵子さん
平成2年2月21日生まれ（長男）

♥家族からの一言

ちよっと目を離すと、庭で水まきをして遊んでいます。その他には砂遊びやドラエモンのビデオを見るのが好きです。

元気で、友だちがたくさんいる子に育ってほしいと思います。



みどり生き生き

八郷の自然

12



秋雨のやんだある日、どこからか強い香り、木屋である。中国から伝来したこの樹は、寺院などに多く植えられ、彼岸の頃開花し季節を知らせた。土手の彼岸花とは情が通じ合った。村人はこれらの花の誘いで、きのこ取りに駆り出された。

真っ赤な彼岸花を見下ろしながら、

木屋ははるか西の空遠く、

生れ故郷を思った。秋の西

の空はあかね色を深め気が

つくと雄花どうしの花期は終わっていた。両方とも実はつかなかった。神が

せめてもと、西の空のあかね色を恵み

金木屋にかえたのかも知れない。同じ

仲間のひいらぎは日本生まれ、初冬に

開花し、め株は黒い実をつける。

中国と自由に交流できる今日、木屋

のめ株を移植し、実生で増殖する事も可能と思う。

花期も葉も、ひいらぎの仲間とは信じられないが、八郷の山野に多い低木のイボタノキ、トネリコも同科であり名はともかく、村人に生活に活用されて知らない人はなかった。

イボタノキは八郷では蠟の木、イボ

木屋と、その仲間

取り枝などと呼ばれていた。冬寄生虫による蠟で枝が白く見え、誰でも雑木山辺で採集する事は容易であった。イボの根本を絹糸でくくりつけ、イボタ蠟を熱してイボに滴下した。村人の民間療法であった。昔の雨戸は重かった。この開閉に苦勞した村人はイボタ蠟を

敷居に引き軽くする工夫をした。

衣料の多くを自給自足した村の生活では、綿の実を取るころは、各戸にあった民具だったがこの回転を良くするにもこの蠟は役立った。木製の家具の艶出しには最高の蠟で、今日でも高級の木製品の仕上げには欠く事のできない蠟だという。

石油やその製品で生活が

成り立っている今、山野に無関心な人が多い。強烈な

木屋にさへ気づかない若者も多い。今

年は異常気象、山野に親しんでいる古

老は五月の連休には予期できたという。

県北の八溝山に残雪があった。

今、地球はピンチ、いやそれは人類かも。窓を開き、木屋に親しもう。

町文化財保護審議委員 軽部豊

みんなの広場



川又 小松崎彩 (6)



スギナ



ラムの親友



柿岡 菊地由香里 (8)

私も

ひとこと

県

立フラワーパークが我が町にあるのに、町の子供たちも入場料を徴収されるのは、おかしいと思います。せっかく八郷町に在住しているのだから、大人も子供も少し優遇されるべきではありませんか。

川又 小松崎丈夫 (35)

町

フラワーパークにとっては、町内、町外を問わずみな同じお客様なので、差をつけることはできません。しかし、町民のみなさんは十一月十三日の県民の日には無料で入園できます。また、町内の方に限りませんが、敬老の日には六十五歳以上のお年寄りが、こどもの日には、小・中学生が無料になりますので、どうぞご利用ください。

フラワーパーク

八

郷町には花と緑の楽園フラワーパークがありますが、子供たちが安心してのびのび遊べる（もちろん無料で）公園ができればいいなと思っています。

柿岡 菊地清

県

そんな公園があったらいいですね。しかし八郷町は町の面積が広く、財政的にも、皆さんの生活に欠かせない支出が多くて、なかなか設置できないのが現状です。町の総合運動公園に

習字コーナー

評 翠崑書院 関 翠 邱

葦穂小一年 白井千晶

柿岡小三年 岩淵陽子

いも

く山ざら

小一 白井 千晶

柿小 三年 岩淵陽子

おおらかに書いています。特に名前は中国の後漢時代の隸書の古法に似ている。よくみると偶然とはいえず実にすばらしい。

山ががちりして本当に山のよう。ざくざく筆の運びが次の面につながっている。点もよく打って、終筆も勢いよく、名前もすっきり。

は芝生広場などがありますので是非ご利用ください。

企画開発課

私

の家は道路に面しているせいかよく道を訪ねられます。『ゴルフ場』『フラワーパーク』etc. 町の案内図をポイントを決めて設置したらどうでしょう。町外の方々にこの町をばらしきをもっとPRできたらステキだと思います。川又 小松崎弘美 (32)

県

隣接市町村より入る主要道路沿いに八郷町の観光案内板が設置してあります。また、各観光事業所においても各々案内板を要所に設置しています。しかし、まだまだ少ない状況かと思えますので検討していきたいと思っています。

商工観光課

県

先日、町民の方からお電話をい

ただきました。「道路で犬を散歩させている人をよくみかけるが、犬をつないだ綱を長く伸ばし、犬が車道まで出て来て危ない。犬をよけようとして事故がおきたらと心配だ。交通量が多い道路では綱を短くするよう気をつけてほしい。また、犬は離れないようにつなぎ、もし自分のうちの犬が人をかんだら知らないふりはしないでほしい。」という内容でした。自分のうちで飼っている犬はかわいいものです。しかし、ご近所の方には迷惑だということもありえます。皆さんももう一度見直していただきたいと思います。広報係

八月号のイラストの一枚で飛鳥&ラムは飛鳥&ラムの誤りでした。訂正しておわびいたします。広報係

フラワーパークの入場券
とふれあいの森乗り物券が
ペアで当たるよ

広報クイズ 66

3つの答えの中から正解を選び
ハガキに書いて送ってください。

① 9月1日現在八郷町の最高齢の
斉藤すてさんは何歳？

(A) 101歳 (B) 100歳 (C) 99歳

② 表紙の写真で都会の親子が収穫
している農作物は？

(A) ナス (B) トマト

(C) ピーマン

③ 農産物の産直事業で扱っている
産物数はどのくらいか？

(A) 40品目 (B) 50品目 (C) 60品目

【応募の方法】

☆ハガキに広報クイズ66と書き、
答えの記号(例1-A)、住所、氏
名、年齢、世帯主と「私もひとこ
と」へのご意見や広報の感想など
を書いて送ってください。イラスト
やマンガも大歓迎。

☆全問正解者の中から10名に、ベ
アでフラワーパークの入場券とふ
れあいの森の乗り物券をプラスし
てプレゼントします。

☆締切日 平成5年10月15日

☆応募先 〒315-01 八郷町柿岡
2009-3 八郷町役場秘書広聴課

☆当選者の発表 本紙11月号

【広報クイズ64の当選者の発表】

正解は1-A、2-B、3-Cでした。
応募33通、正解32通の中から次の
10名が当選しました。

富田年雄(下青柳) 菊地理恵(柿
岡) 桜井亜紗美(上青柳) 海老沢
恵子(小幡) 中島美智子(小倉)
加藤すい(仏生寺) 佐藤麻結(東
成井) 鈴木勝支(菖蒲沢) 飯村由
希子(山崎) 高橋里美(柿岡)

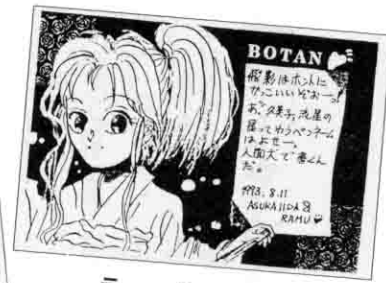
【敬称略】



ム ク (11)



滝本 理恵 (12)



ラ ム

●やさと文芸

短 歌

吉田 次郎 選

ひざまづき父の遺影に真向かえばその口元の動くかに見ゆ

山崎 鈴木君 江

原爆の体験語るその女性の苦難を越えし顔の美し

弓 弦 塚田 きよ

久々に娘夫婦に招かれし華厳の滝に心洗わる

東成井 小島 せん

俳 句

綿 引 鼓 峰 選

長梅雨を憂い老農空仰ぐ

上 曾 足 立 喜一郎

長梅雨の晴れ間が嬉しくロッケー

山 崎 鈴木 君 江

山百合の香の漂ひし茶の間かな

大 塚 友 部 ゆき江

俚 謡

大 木 嶺 月 選

長い梅雨でも恨むな天を庭の紫陽花色を増す

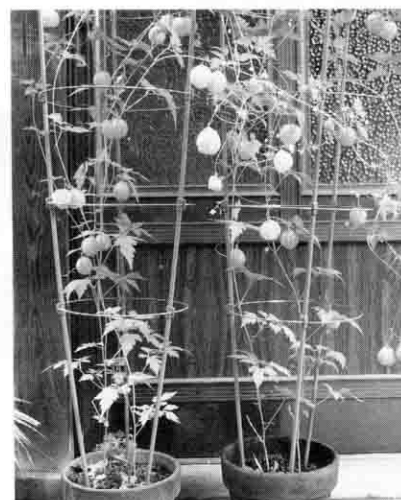
東成井 小池 亀太郎

友を訪ねりや築山匂う白い山百合花盛り

大 塚 友 部 ゆき江

土用中でも重着炬燵秋の実りが気にかかる

上 曾 足 立 喜一郎



願い事がかなうという花言葉の
風船かづら。可憐な青い実が親し
まれ庭先で栽培されている。

(柿岡地内にて)

やさ
と
点
描

「ま」の「話」で「き」と

身近な出来事や地元の
話題をおよせください
(連絡先・秘書広聴課 内線二二三)

高校生による演劇祭

県内A地区(田第五通学区)の高等学校の演劇クラブが集まり、中央公民館ホールを会場に「高校演劇祭」を開催しました。演劇祭には九校が参加。八月四日と五日の二日間かけ、高校生たちは各

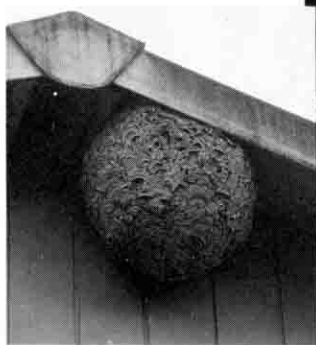
校一時間ずつの上演時間で、自分たちが作った劇を上演しました。なお、審査の結果、土浦第一高等学校と中央高等学校の県大会出場が決まりました。写真は八郷高等学校の「青春グラフィティ」です。



ビックリ! スズメバチの巣が五つ

真家の宮守正さんのお宅には、スズメバチの巣が五個作られています。五個はほとんど同じ大きさで縦が約四十五センチメートル、まわりがおよそ二メートル五十センチあります。巣は毎年一個づつ

作られ、去年で五個目が完成したそうです。ちょうどその年は守正さんが七十七歳の喜寿、また、ご夫妻の金婚式の年でもありました。蜂の巣が縁起がいいというのは本当かもしれませんね。



小幡の木村君、甲子園で大活躍

この夏、県代表として甲子園球場の土を踏んだ常総学院野球部の活躍は、みなさんのご記憶に新しいことと思います。その常総学院のナインの一員として、小幡の木村友紀君が出場。左翼を守り、五番打者としての数々の活躍は大いに観衆をわかせました。

木村君は小学校四年のときからスポーツ少年団で野球を始め、南中野球部を経て常総学院へ進みました。「普段は気持ちのやさしい子。試合になると負けず嫌いになります」とはご両親の話。木村君はいま二年生なので、これから活躍が期待されます。



ときめき
ティータイム



稲田 広美(柿岡・22歳)さん

休日は、ドライブをしたり、家でのおんびりしています。理想の男性はやさしくて頼りがいのある人。



ありがとうございます

○学校環境整備に役立てたいと竹ぼうき五百本 真家 関本宗吾
○「北海道南西沖地震災害たすけあい」義援金(町社会福祉協議会受付)

○ほしのみや幼稚園父母の会

一万二千九百四十円

○ほしのみや幼稚園職員一同

一万円

○八郷町役場職員一同

四万三千六百四十円



大久保議員逝く

町議会議員として活躍していた大久保芳太郎氏が八月二十二日、午前八時四分に肝性脳症・肝不全のため、石

岡市医師会病院で死去しました。大久保氏は昭和九年六月九日、柿岡で生まれ、石岡第一高等学校を卒業。農業を営むかたわら、昭和四十七年町議会議員に初当選。以来、通算五期歴任しました。この間、議会副議長、教育民生

委員長や議会選任の農業委員も務められました。また永年議員として郡・県・全国町村の議長会会長から表彰も受け、その将来に大きな期待がもたれていました。葬儀は八月二十四日、自宅ですめやかにとり行われました。

「反核平和の火」来る

今年も「反核平和の火」が県内を走り次がれました。この運動は一九八二年に被爆地広島から始められ、平和公園に燃え続ける「平和の火」を採火することで「ヒロシマの心」を現地から受け継いでいこうとするものです。今回は八郷町を

通り、八月十一日に役場職員十六名が千代田町役場から八郷町役場間約十三キロメートルを走り継ぎました。ランナーは太陽の照り付ける中、汗だくになりながら走りました。「平和の火」絶やしたくないものです。



東成井の万灯



東宝ランドの夏祭り

にぎやかに 夏のお祭り

園部地区の夏祭りを二つご紹介します。まず、東成井の万灯。これは成沢不動尊の祭礼として行われ、田おこしから取り入れまでを踊りにした豊年踊りが特徴です。昭和三十年頃までは盛んに行われていましたが、それ以後は衰退。豊年踊りを知っているのは年配の人に限られているので、それを受け継ごうと、去年から保存会ができました。お祭りは七月二十七日午後七時から東成井田園都市センターで始まり、盆踊り、豊年踊り、ゲームなどがにぎやかに行われました。

もう一つは、第五東宝ランド区の夏祭り大会で、七月三十一日に東宝ランド内の空き地で開かれました。東宝ランド区は近年急激に戸数が増し、現在は百四十戸あまり。新興住宅地なので近所との付き合いが少ないそうです。そこで自治会が主催し、東宝ランド内また近隣の方々の融和を目的として企画されたものです。お祭りは午後二時から始まり、各種ゲーム・カラオケ・盆踊り大会、班ごとに出された模擬店など、どれも予想以上に盛況でした。

壮年サッカーチーム 全国大会へ

八郷町の壮年サッカーチームが、県代表として第六回全国スポーツ・レクリエーション祭に参加することとなりました。この大会は、十一月十四日(日)から十六日(火)まで、千葉県市原市と習志野市を会場に開催されます。



町の最高齢者齊藤すてさんは、峯寺山西光院のふもと、緑に囲まれた山ふところに住んでいます。八十歳になる息子の豊一さんは「おばあちゃんは若い時、人一倍の働きものでした。体を動かすことも長生きをするには大切なことですね」と母親をいたわるように話してくれました。毎年九月の敬老の日特集には、長寿の方の取材に訪れますが、齊藤さんのように山ふところの自然に囲まれた地区に住んでいる方が多いようです。長寿の方はほとんどが女性ですが、男性の長寿者には酒をこよなく愛する方も見られます。もちろん上戸が長生きの条件とはなりません。毎年九月には命の尊さを改めて思い知らされます。(岡)

身近な問題に多くの意見

区長会主催による区長会連合会役員と町執行部との初めての行政懇談会が八月九日、中央公民館で開かれました。懇談会は町の政策的な問題や身近な事柄などについて午後一時三十分から約二時間にわたり熱心に話し合われました。ここではその主な内容を要約して紹介いたします。

Q 礪山一男金指区長 片野の堤防改修計画はどうなっていますか。
A 町長・笹沼建設課長 県の方

針では、河川改修は下流から実施するそうで年次計画により現在、改修を進めています。また、片野

側の右岸堤防が低く、約三百から四百メートルにわた

りかさ上げをするため、県で用地買収を行っています。

県でも恋瀬川の河川改修は、根小屋

地内へ移転計画のある県畜産試験場との関係もあるの

で早急に実施したいそうです。災害

防止のため今後とも努力を重ねてまいります。

台風11号の影響で増水した片野光安寺橋付近



Q 桜井量一 郎上

青柳区長 お年寄りが多くなりま

すので、老人ホームなどが必要になるのではないのでしょうか。

A 赤羽根福祉課長 二〇二一年には町内の高齢者比率（六十五歳

以上）が二五％に達する見込みです。国は在宅福祉の方針ですが、

関係者にとっては大変です。老人ホームの設置は、町内者より申請があり、県に同意書をつけて申請

いたしました。

A 中島保健室長 保健活動の拠点づくりとして早い時期に保健セ

ンターを整備したいと思っています。

Q 岡野和彦新田区長 上曽峠のトンネル化の最近の動きは。

A 笹沼建設課長 平成二年度から調査に入り、航空写真を撮り、

ルート決定のため、環境アセスメントの調査を進めています。しか

し、ルートはまだ未定です。

Q 堀川真一金ヶ沢区長 幅二メートルの坂道舗装をしても、土地

重要な所から整備していますが、転作未達成地区は整備していません。

Q 萩原清宇治会第二区長 まちづくりアンケートの

人選、活用方法は。

A 峯企画開発課長 アンケートは無作為抽出で行い、

現在進めている町総合計画及び都市計画の策定資料として活用したいと考えています。

Q 長谷川勝宿山崎区長 ゴミ集積所が通勤途上の人によって悪用

されているので、なんとか防止できないものでしょうか。

A 松田生活環境課長 悪用されるため大通りに面した集積所を路

地裏に設置し直した地区もあるようです。広報などでポイ捨てや悪

用しないようPRしていきたいと思

います。

Q 市塚義則片岡本田区長 根小屋地内に移転する県畜産試験場の



真剣に意見を述べる区長のみなさん

内容とそれに伴う町全体の活性化は。

A 峯企画開発課長 総面積はおおむね百十ヘクタールで、そのうち民有地が六十、国有地が

五十ヘクタールです。現在、買収に鋭意努力中です。県では、

乳牛、和牛を主とする大家畜などの試験施設とふれあい施設を整備する基本計画を策定してい

るところで、試験場は平成九年の春にオープンする予定です

ので、畜産振興と観光開発の両面から、今後の町の活性化に役

立つものと期待しております。